

「いつか」ではなく「いま」

自然災害に備えよう

ID 1003223

まだ記憶に新しい、全国に甚大な被害をもたらした「令和元年台風第19号」。地球温暖化の影響などにより、ここ10年の豪雨の発生回数は1979～1989年の約1.2倍となり、土砂災害が起きやすくなっているといえます。

いつ、どこで起こるかかわからない土砂災害から身を守るためには、日ごろから災害に備えることが大切です。

6月は土砂災害防止月間です。この機会に、自分自身の問題として、防災について考え、家族で確認してみましょう。

問 河川課 ☎(632)2686、宇都宮土木事務所 ☎(626)3146

大雨が続くこれからの時期 土砂災害にご注意ください

自然災害には、台風や大雨などによる風水害や突発的に発生する地震などがあり、人間の力では食い止めることはできません。被害を最小限に抑えるためには、日ごろからこれらの災害に備え、正しい知識を持ち、準備しておくことが大切です。

今回は、これから梅雨や台風の時期によって発生しやすくなる土砂災害に関する知識や自然災害への備えについて紹介します。

被害を最小限に抑えるため 日ごろから災害に備えよう

大雨が続くと、がけ崩れなどの土砂災害が発生しやすくなります。土砂災害に備えて、非常持出品の事前準備(9ページの記事参照)や安全な避難経路を確認するなど、土砂災害警戒情報の発表時に速やかな避難ができるよう、日ごろから適切な準備を行いましょ。

早めの自主避難で 災害から身を守りましょう

避難とは「難」を「避ける」ことで、危険な場所の外へ身を移し

て、安全を確保することです。

土砂災害警戒区域に住んでいる人は、災害の前触れを感じた時(9ページ上の記事参照)や市が避難情報を発令した時には、早めこれらの区域外に避難することが大切です。

また、土砂災害警戒区域の外などに住んでいる人も身の危険を感じた場合には、速やかに避難してください。

感染症対策を意識して しっかり準備をしましょう

災害時は、自分と家族の命は自分で守る「自助」が大切です。感染症防止のため、家庭内備蓄品や非常持出品には、体温計や消毒液、マスクも準備しましょう。

避難先は必ずしも避難所だけではありません。避難所での密を避けるため、安全な場所にある親戚や知人宅にも避難することも検討してください。

「もしもの時」のために 土砂災害防災訓練※

▼日時 6月6日(日) 午前9時
～正午。

▼会場 叶谷公民館(叶谷町)。

▼対象 叶谷町の一部の住民。

※ 本市では、毎年6月の土砂災害防止月間に、市内の地区を対象に防災訓練を実施しています。

⚠ 土砂災害の危険信号 ⚠

大雨または地震が発生した時、次のような前触れを感じたら、早めに安全な場所へ避難してください。

特集
②

■ かけ崩れ

- ▼ かけから水が吹き出す。
- ▼ かけからの水が濁る。
- ▼ かけに亀裂が入る。
- ▼ 小石がパラパラと落ちてくる。
- ▼ かけから音がする。



■ 土石流

- ▼ 山鳴りや立ち木の裂ける音が聞こえる。
- ▼ 石のぶつかり合う音がする。
- ▼ 雨が続けているのに、川の水位が下がる。
- ▼ 川の水が急に濁ったり、流木が流れてきたりする。
- ▼ 泥臭いにおいが漂う。



■ 地すべり

- ▼ 山腹や地面にひび割れができる。
- ▼ 沢や井戸の水が濁る。
- ▼ 斜面や地面から水が吹き出す。
- ▼ 建物や電柱、樹木が傾く。
- ▼ 井戸や池の水かさか急激に変わる。



「もしもの時」のために 日ごろからできる準備

5月に改訂!

あなたの街のハザードマップ ID 1023319

本市では、土砂災害の恐れのある区域や避難場所などの情報を掲載した「土砂災害ハザードマップ」を作成しています。5月に、篠井地区など計20地区のハザードマップを改訂しました。

河川課(市役所8階)や各地区市民センターで配布している他、市庁からも閲覧できますので、避難場所や避難経路の確認などにご活用ください。



▲土砂災害ハザードマップ

あなたの家は大丈夫?

家庭内備蓄品と非常持出品の準備 ID 1003237

チェックしてみましょう

- | | |
|--|--|
| <input type="checkbox"/> 貴重品 | <input type="checkbox"/> 応急医療品 |
| <input type="checkbox"/> 飲料水・食料品 | <input type="checkbox"/> 生活用品 |
| <input type="checkbox"/> 照明・情報端末 など | <input type="checkbox"/> 衛生用品(マスク、消毒液、 体温計など) |
| <input type="checkbox"/> 衣類・タオル | <input type="checkbox"/> メガネ、コンタクトレンズ |

災害時には、電気やガス、水道などが使えなくなることや、食料品や生活用品などが手に入りにくくなる場合があります。

改めて必要なものを確認し、準備しましょう。

ご活用ください

わが家の防災マニュアル ID 1003235

基本的な防災知識を紹介する他、避難所マップも掲載しています。各地区市民センターや出張所などに置いてある他、市庁からも閲覧できます。

また、土砂災害の恐れがある区域などの情報は、最新のハザードマップをご覧ください。



緊急時に配信されます

土砂災害警戒情報・洪水情報の緊急速報メール

洪水や土砂災害の恐れがある時に、住民の皆さんに危険をお知らせする「緊急速報メール」が県から配信エリア内に届きます。

☎宇都宮土木事務所 ☎(626)3146

土砂災害警戒情報URL1の緊急速報メールについて、詳しくはこちら



洪水情報URL2の緊急速報メールについて、詳しくはこちら



／皆さんが安心して暮らせるように／

水害への減災・防災対策に取り組む 「総合治水・雨水対策推進計画」を策定しました

ID 1027039

地球温暖化により、今後も発生する可能性がある大型台風やゲリラ豪雨などの水害への備えが重要です。

本市では、市民の皆さんが安全・安心に暮らせるよう、治水・雨水対策を強化し、水害に備えたまちづくりを進めています。

☎河川課 ☎(632)2686

流す

積極的・効果的に遂行／

河川の改修・下水道の整備

河川の改修や下水道の整備を行い、雨水を安全に流す。



流す

調節池整備(県事業)

洪水を一時的に貯留して、河川の流量を低減する。

貯める

強化／

透水性舗装・浸透ます設置

市道などで雨水を地下に浸透させ、流出を抑制する。



流す

計画的に遂行／

河川や調節池(調整池)のしゅんせつ

河川などに溜まった土砂や流木を取り除く。



貯める

官民協働

強化／

雨水貯留・浸透施設設置費補助金制度

ID 1002659

敷地内の雨水を貯留・浸透させ、流出抑制を図る。

一般住宅や事務所などへ雨水貯留タンクなどの設置費を最大3分の2補助(上限あり)。

詳しくは、54ページまたは市☎をご覧ください(633)3164へ。



備える

強化／

ハザードマップ(※1)の周知徹底

ID 1023319

市☎や出前講座を開催し、防災意識を高める。

貯める

強化／

市有施設への雨水貯留タンク設置

市有施設への雨水貯留タンクの設置を率先して行い、流出抑制を図る。

水害に強いまちづくり
を目指して

本市に甚大な被害をもたらした令和元年台風第19号。地球温暖化により、今後も台風の大型化や、局所的な豪雨が頻発する可能性があります。それらに備えるため、本市では「総合治水・雨水対策推進計画」を策定しました。

この計画に基づき、自助・共助・公助により、「流す」「貯める」「備える」の3つの柱の取り組みを総合的に実施することで、水害に強いまちづくりを目指します(上のイラスト参照)。

▼計画の特徴 あらゆる関係者が、流域全体で河川整備や雨水流出抑制対策を行う「流域治水」の考え方を踏まえ、「流す」「貯める」取り組みを効果的に組み合わせることと、被害の軽減を図る計画です。

県が管理する田川・姿川は、流域が広いため、台風などの長時間降雨で被害が発生しやすく、流域が狭い市の管理河川はゲリラ豪雨などの短時間降雨で被害が発生しやすい特性があります。そのため、それぞれの河川や降雨の特性に応じた、効果的・効率的な取り組みを、市民の皆さんと協働で実施す

※1 「宇都宮市姿川・田川流域洪水ハザードマップ」に釜川・武子川などを加え、改訂しました。

＼田川・姿川における／

県および市による中期対策

次の取り組みを行うことで、令和元年台風第19号と同規模の洪水に対して、被害の軽減が見込まれます。

県の対策

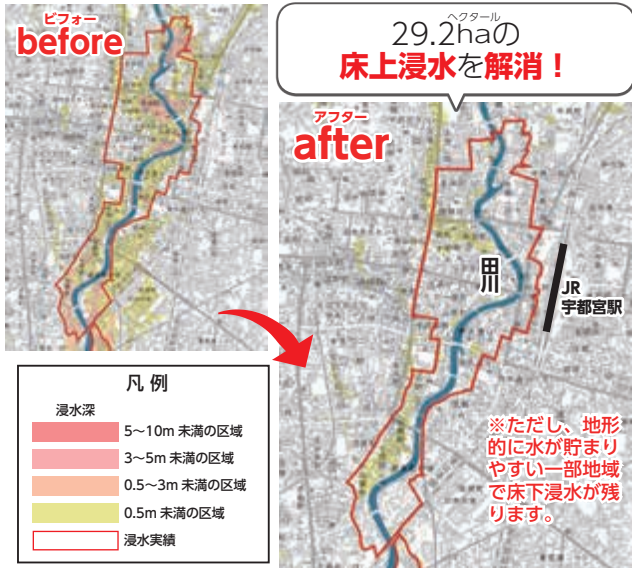
- 田川
 - ▼調節池の整備。
 - ▼河道の掘り下げ。
- 姿川
 - ▼調節池の整備。
 - ▼河道の拡幅。

市の対策

- 「貯める」取り組みの強化
 - ▼田んぼダムの普及促進。
 - ▼公共施設での貯留促進。



■田川流域の市街地での被害軽減が見込まれます
田川では、県および市が中期対策(上の記事参照)を行うことで、床上浸水(宅地の浸水深50cm以上)被害の解消を目指しています。



＼住みやすく災害に強いNCCを目指して／

立地適正化計画の「防災指針」を策定しました

ID 1009282

本市では、「ネットワーク型コンパクトシティ(NCC)」の形成に向け、中心市街地や駅周辺、LRTや幹線バス路線の沿線など、公共交通を使いながら便利で暮らしやすいエリア(誘導区域など)への居住や都市機能の誘導促進に取り組んでいます。

こうした中、近年の自然災害の頻発化・激甚化を踏まえ、誘導区域などにおける防災性や安全性を高め、居住や都市機能の誘導を促進するための指針として立地適正化計画の「防災指針」を策定しました。

今後は、総合治水・雨水対策推進計画と連携しながら、災害リスクを踏まえた防災・減災対策に取り組むことで、災害に強く、安心して便利に暮らし続けられるまちづくりを進めていきます。

☎NCC推進室 ☎(632)2563

＼雨水の貯留量を約7倍アップ／

中期・長期計画で見込まれる効果

| | 貯留量 | |
|-------|------|-------|
| | 現在 | 10年後 |
| 田川・姿川 | 33万㎡ | 225万㎡ |
| 市管理河川 | | 14万㎡ |
| 計 | 33万㎡ | 239万㎡ |

| | 整備率 | |
|-----|-------|------|
| | 現在 | 10年後 |
| 河川 | 62.5% | 70% |
| 下水道 | 56.3% | 63% |

長時間降雨(6時間で213.6mmの降雨)でも
▼田川流域では5年後
床上浸水ゼロ!
▼姿川流域では10年後
床上・床下浸水ゼロ!

短時間降雨(1時間で47.2mmの降雨)でも
▼市管理河川流域では10年後
床上浸水ゼロ!

貯める

強化

田んぼダム(※2)の普及促進

農地所有者や耕作者の協力のもと、水田に雨水を一時貯留し、河川への流出抑制を図る。



流す

強化

水門の修繕・改良

河川と水路の水を適正に管理するため、水門の修繕・改良を行う。



貯める

強化

学校への雨水貯留タンク設置・校庭貯留

敷地内で雨水の貯留を行い、流出抑制を図る。

貯める

強化

公園への雨水貯留

敷地内で雨水の貯留を行い、流出抑制を図る。



市民の皆さんが安全安心に暮らせるために

市管理河川についても、さらなる目標の前倒しを検討し、効果を早期に発揮できる事業に着手するなど、これから先も市民の皆さんが安全・安心に暮らせる水害に強いまちづくりを進めていきます。

特に、被害の大きかった田川・姿川においては、県の取り組みに加えて、官民協働による本市の「貯める」取り組みを連携して実施することで、さらに浸水被害を軽減することが期待できます。